

〔和爾雅<sup>五</sup> 嬉<sup>五</sup> 戲具<sup>五</sup>〕樗蒲<sup>カキタ</sup>

〔倭訓栞<sup>中</sup> 編四<sup>四</sup>〕かりた<sup>略</sup>○中

戲具にいふは檮板の義なるべし、紙牌骨牌などいへり、かるたともいふ、蠻人の玩ぶもの、其かうんすんなどいふ、皆蠻語也、牌の繪に四品ありて、いすといふは劍也、はうといふは青色、こつぷといふは酒盞也、おをるといふは玉也といへり、かるた圖は阿蘭陀の舟を乗に用る地圖也といへり、

〔本朝世事談綺正誤<sup>器用一</sup>〕賀留多

多田夜話曰、かるたと云は、梵語にて唐譯していふ時は、圖と云ことなり、繪圖の書ある物といふ意にて、博奕の具に限りたることにはあらず、樗蒲と云る博奕に用ふる札の名なり、ともに繪書にある故、かるたといふ、繪が付たなど、いふ能かるたの義にかなふ詞なり、これにては梵語のやうなれど、いづれもあし、もとより寛永の先にあること辨をまつべからず、また春湊浪話卷の一日、かるたは輕板といふ言葉の略なるにやといへど、いまだし、おもふに和名類聚抄卷の四雜藝類樗蒲、兼名苑云、樗蒲一名九采、<sup>内典云、樗蒲、和名加利宇知、</sup>とあるをもておもへば、かるたは加利宇知の約たるとおもはる、宇知の反つなり、つとたとかよへり、さればかるたといへるものは中國のいとふるくよりあるものと見えたり、その言の蠻語に似かよひたれば、僻説したるものならんか、

傳來

〔本朝世事談綺<sup>器用二</sup>〕賀留多

阿蘭人これを翫ぶ、寛永のころ、長崎港の人民倣て戲とせり、

○按ズルニ、次ニ引ケル長會我部元親式目ニ據ルニ、カルタハ慶長ノ頃、既ニ盛ニ行ハレタルガ如シ、

〔長會我部元親式目〕掟

一博奕、カルタ、諸勝負令停止、<sup>附</sup>其外不作法令禁制事、○中